

北斗病院

元気な末期がん患者に治療の選択肢提供

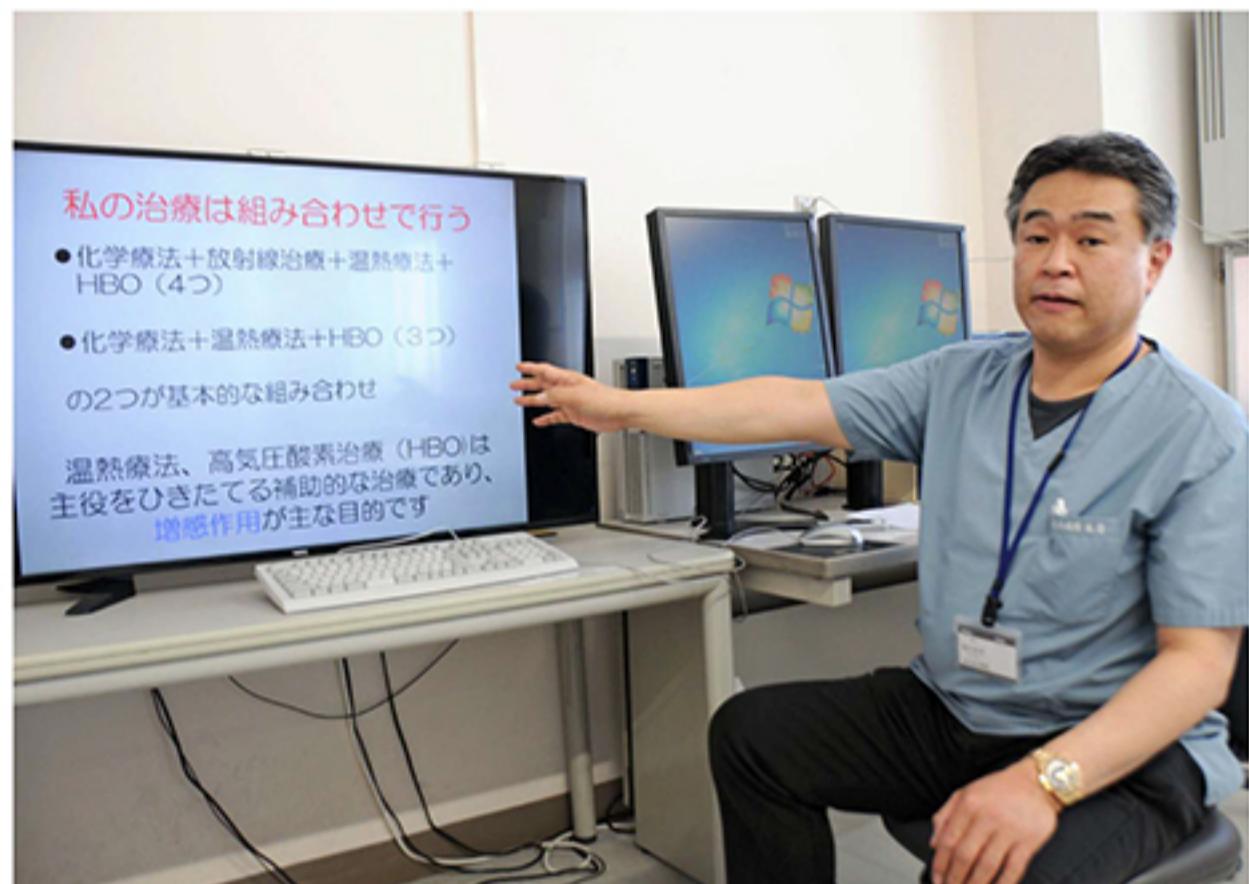
北斗病院(井出涉院長)は、がん患者に対する「集学的治療」を行っている。標準的な化学治療や放射線治療のほか、温熱療法など複数の治療法を組み合わせることで、末期のがん患者に延命を目指せる治療の選択肢も提供している。担当する放射線治療科の成定宏之医師(55)に治療のメリットなどを聞いた。(松岡秀宣)

—治療の対象患者は手術切除不能の局所進行が術後の再発、術後再発転移、転移を伴ったステージ4のがんと診断された人など。その上で元気でご飯が食べられ、歩ける人。「元気なのに、なぜ治療ができないの?」や「このまま、この治療を受けている大丈夫なのだろうか」と思う患者が多い現状もある。

—切除不能がんの治療の現状はガイドラインによつて標準的な治療が整備され、病院ごとに治療内容の差異はない、という「均てん化」が図られている。一方、患者目線の顧客満足度をみると、「満足の

北斗病院(井出涉院長)は、がん患者に対する「集学的治療」を行つてゐる。標準的な化学治療や放射線治療のほか、温熱療法など複数の治療法を組み合わせることで、末期のがん患者に延命を目指せる治療の選択肢も提供してゐる。担当する放射線治療科の成定宏之医師(55)に治療のメリツトなどを聞いた。(松岡秀宣)

放射線、温熱療法など合わせて余命延長も可能に



がんの集学的治療について解説する成定医師

アンケートからも明らかで、実は医師が最もその回答が多い。

できるだけきつくなく、可能な限り普通の生活を送りながら治療を受けて、できるだけ長生きできる。誰しも、そくいくわけではない。

—集学的治療とは
ガイドラインに添える添えないにかかわらず、貫して、補助療法である電磁波温熱療法や、高気圧酸素療法(HBO)を併用する。つまり、プラスして行つということ。

—集学的治療と標準治療との違いは。
患者さんが元気であれば、未治療の状態でも、治療途中であつても、即座に変更して、集学的治療が開始できる。再発を指摘されてすぐの状態でも、あるいは他の医師のところで諦めた状態でも、「普通に治療できます」という患者さんも多くみられる。ただし、患者さんの体調が良い、といふ条件はある。

—十勝の住民に伝えたいことは。
対象のがんは、腫瘍を形成する多くの固形がん。いま、受けている治療が分からなければ、などがあれば、気軽に聞いきに来ていただければ。

—一つとして、切除不能進行がんの患者さんの治療のほとんどが、薬剤のみでしか考えられないことと、その薬剤の増感作用について全く考えられないことに尽きる、と私はならないことに尽きる、と私はなりさだ・ひろゆき(産業医)。福岡徳洲会病院がん集学的治療センター長などを経て、2021年5月から、北斗病院でがんの集学的治療を開始。日本医学放射線学会・放射線腫瘍学会の認定放射線科専門医、ハイパーサーミア学会指導医。

うした治療を受けたいと思うのは当たり前前の心理。

私が行う集学的治療の目的は、「できるだけきつくななく、日常生活を送りながら、できるだけ長生きをしていていい」という理念に基づいている。もちろん、すべてがうまく」という人が多い。このことは

患者さん一人ひとりに対しても、がん治療の計画・実施まで、すべて一人の医師で完結する方式を探つてゐる。これにより、大病院でみられる、細分化された診療科による縦割りの弊害はなく、迅速な治療開始、方針変更ができ、これまで大幅に時間も節約できる。

放射線治療は日本では4人に1人しか照射されていないが、欧米では3人に2人が照射されている。標準治療における薬剤は投与するのみで、効果を増感するような方法は一切、議論されていないのが現状。

—集学的治療の組み合わせは。

「化学療法+放射線療法+温熱療法+HBO」と「化学療法+温熱療法+HBO」の二つが基本的な組み合わせとなる。温熱療法やHBOは主役を引き立てる補助的な治療であり、増感作用が主な目的だ。

—十勝の住民に伝えたいことは。
対象のがんは、腫瘍を形成する多くの固形がん。いま、受けている治療が分からなければ、などがあれば、気軽に聞いきに来ていただければ。この治療は、標準治療だけでは得られない余命の延長も可能となり、みなさんが受けられるもの。肺(すい)がんの人の成績を例にみても、過去に勤務した病院の患者さんと、十勝の患者さんは同じ成績が出る。再現性もある。オーダーメイド治療として、これからのがん治療では必要ではないかと考えている。